

令和4年度 学校関係者評価書

学校名 北海道北広島西高等学校

1 本年度の重点目標

<目指す生徒像> (1)真摯な姿勢で、最後までやり遂げる生徒 【責任感・継続力・自己管理能力】 (2)心配りができ、豊かな人間関係を築ける生徒 【自己理解・他者理解・協働力】 (3)上向きな心で、主体的に挑戦し、努力する生徒 【自己肯定感・主体性・探究心】 <スクールミッション> (1)向学心や探究心を身に付け、自己の進路決定に向けて意欲的に学習に取り組む生徒の育成 (2)集団生活や特別活動等を通じて、コミュニケーション能力や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成 (3)責任感や社会性を培い、真摯な姿勢で物事に取り組むことのできる生徒の育成	組織名	学校評議員会
	評 価 者	
	学校評議員 5名	

2 自己評価結果

A= 3.3以上 B= 3.0以上 C= 2.9以下 D= 2.5以下

評価項目・指導等		達成 状況	取組 の適 切さ	改善の方策	自己評 価結果 内容の 適切さ	取組の 適切さ	今後の 改善方 策の適 切さ
項目	小 項 目						
保護者・ 地域との 連携等	ホームページや一斉メール配信等での情報発信を通じて、保護者との情報共有や連携を図っている。	A	A	○ICTを活用した保護者・地域との連携を検討する。 ○安全点検確認の充実と管理マニュアルの徹底。	A	B	A
	PTA活動が活発に行われている。	B	A				
	施設・設備の整備や防災教育の充実により、生徒が安全・安心に生活できる環境・体制を整えている。	B	A				
学習指導	「学び直し」の取組を軸に、基礎・基本の習得等、基礎学力の定着を図っている。	D	A	○ベーシックスタディや週末課題の使用教材や実施方法の見直しを図る。 ○学習状況調査等の分析から生徒の実態把握に努め、保護者と連携した学びに向かう姿勢の改善を図る。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、外部研究会への参加及び校内研修会の実施を継続させる。	B	A	A
	授業規律を徹底し、主体的・協働的に学習する態度の育成を図っている。	C	B				
	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、授業改善に取り組んでいる。	C	C				
生徒指導	規範意識の向上と基本的生活習慣の定着に取り組んでいる。	C	A	○生徒主体で挨拶や日常のマナーについて考えさせる機会を設ける。 ○登下校時や休み時間中など、教員が生徒の様子を観察する機会を増やす。また生徒の情報について教員間で速やかに情報共有する。 ○交通安全教室や情報モラル教室などの実施時期や内容について工夫する。	B	B	B
	いじめの未然防止・早期発見・早期解消に取り組んでいる。	C	B				
	事故や問題行動等の未然防止に向け、開発的・予防的な指導や相談に取り組んでいる。	C	A				
進路指導	生徒の自己実現に向け、3年間を見通した組織的・体系的な進路指導(キャリア教育)が行われている。	D	A	○生徒が直接、上級学校や企業と情報を交換できる場をこれまで以上に増やし参加を促す。 ○ICTを有効に活用し、進路情報を提供する。 ○進路に対して主体的に活動できる生徒を育成する。 ○個別面談の充実。	A	A	A
	外部の教育力を積極的に活用し、広い視野で、自らの進路を切り拓く意欲と、社会人として必要な能力の向上を図っている。	C	A				
	説明会等を通じて、保護者に進路情報の周知が行われ、適切な進路選択に向けて、保護者との連携が図られている。	C	A				
学校運営	「目指す生徒像」や「スクールミッション」を踏まえた明確な目的・目標のもと、学校として教育活動の改善・充実に取り組んでいる。	C	A	○全ての教育活動を通して、目指す生徒像の実現の取組を行った。今後は、生徒・保護者・地域住民・教職員と目指す生徒像に関わる意見交流会の実施を検討していく。 ○教職員で業務改善に向けたグループでの話し合いを行った。今後は、業務の見直しを行い、個々の業務負担の軽減を図る。	A	A	B
	教育のプロとして使命感を持ち、生徒や保護者、また地域から信頼される職員となるように努めている。	C	A				
	「働き方改革」の推進に向けて、職員の意識改革や学校運営の工夫・改善を図っている。	D	B				

A: 十分である B: おおむね十分である C: やや不十分である D: 改善を要する